

# VideOListening

Program for Digital Art & Technology

長岡メディアアート週間 ビデオリスニング

2025 11/5<sup>wed</sup> - 11/16<sup>sun</sup>

場所 長岡造形大学 ミライエ長岡 他





# VideoListening

Program for Digital Art & Technology

長岡メディアアート週間 VideoListening2025 (ビデオリスニング)

VideoListening 2025 は、長岡市と、2023 年に長岡造形大学に着任したメディアアーティスト山本信一による都市型デジタルアートプロジェクトです。11 月 5 日から 16 日までの会期中、長岡造形大学の自然に囲まれた敷地を舞台にした屋外インスタレーションを中心に、複数のデジタルアートインスタレーションやイベントを実施します。会場は長岡造形大学を中心に、ミライエ長岡やアオーレ長岡といった市街地の施設にも作品を配置し、大学と市内を結ぶかたちで複数のプログラムを展開します。最終日の 11 月 16 日には、関心の高まる画像生成 AI をテーマとした 2 つのトークセッションを開催し、現場での技術活用や最新の動向を紹介します。

VideoListening HP : <https://videolistening.space/>



## 山本信一 Synichi Yamamoto

メディアアーティスト / クリエイティブディレクター

長岡造形大学 造形学部デザイン学科 教授

メディアアート、映像インスタレーション、モーショングラフィックスを軸に、都市空間・科学・音楽・デザインを横断する映像表現を展開。日本科学未来館でのドーム映像《9 次元から来た男》や地球ディスプレイ作品《軌跡〜The Movements》をはじめ、映像を空間に拡張する作品を国内外で発表してきた。

大型映像や AR・XR、公共空間での常設映像を手がける。代表作《新宿東口の猫》(2021〜) では独自の映像設計が話題を呼び、ADC 賞や文化庁メディア芸術祭ソーシャルインパクト賞など 17 の賞を受賞。

一方で、90 年代のビデオアート以降、「エレクトリック音楽の延長としての映像」をテーマにアート活動を継続。MUTEK などの国際フェスティバルやレジデンスを通じて、モントリオール、メキシコ、サウジアラビアなどで作品を発表。近年はアンビエント音楽家 Corey Fuller とともに都市空間に静寂を生み出す作品を制作している。

2023 年より長岡造形大学教授。映像による没入型体験を教育・研究のテーマとし、大学内にイマージススタジオを設立。次世代の視覚文化と空間表現の探究に取り組んでいる。

主催：公立大学法人長岡造形大学 長岡市

企画：公立大学法人長岡造形大学 山本信一研究室

協力：NTT 東日本新潟支店 株式会社ソルメディエージ

iml デザインスタジオ 株式会社オムニバス・ジャパン superSymmetry

SOLU MEDIATE inc.  
A Creative Production Studio.

iml  
design studios

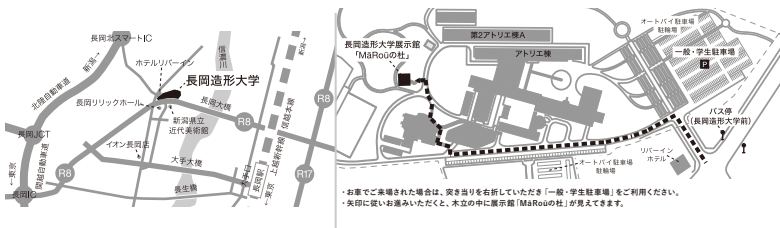
OMNIBUS JAPAN

NTT 東日本新潟支店

superSymmetry

NAGAOKA

NID  
公立大学法人  
長岡造形大学  
Nagaoka Institute of Design



お問い合わせ：長岡造形大学 地域協創課  
〒940-2088 新潟県長岡市千秋4-197/メール: [chiiki@nagaoka-id.ac.jp](mailto:chiiki@nagaoka-id.ac.jp)  
電話: 0258-21-3321/ホームページ: <https://www.nagaoka-id.ac.jp>



| プロジェクション x レーザーインスタレーション

映像とレーザーがリアルタイムに連動するインスタレーションを限定公開。レーザーは映像の動きを追従し、空間全体を縫うように光が走る。長岡に滞在した二人が、光と映像の境界を探る実験的な作品

インスタレーション

瀬賀誠一 Seichi Sega「Quantum Lines」  
川口萌花 moka「Lure」

11月8日（土）  
11:00－11:30  
12:45－13:15  
14:30－15:00  
16:00－16:30

11月12日（水）  
14:00－15:00  
18:00－19:00

11月16日（日）  
15:30－16:30

会場：長岡造形大学 映像スタジオ B



瀬賀誠一 Seichi Sega「Quantum Lines」

映像空間に浮かぶ無数の光線が、時間とともに生成・消失を繰り返す。秩序と偶然の狭間で変化する光の軌跡は、量子的な世界の不確定性を可視化する



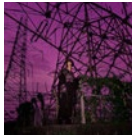
瀬賀誠一 (Seichi Sega)

デジタルアーティスト。俯瞰的な構造や規則性をテーマに、音楽や伝統芸能との協働など多彩な表現を展開。国内外のフェスティバルに多数参加。長岡造形大学非常勤講師。



川口萌花 moka「Lure」

強い光そのものを“Lure（誘惑）”として捉えた作品。人々を惹きつけ、群がらせる光の引力は、SNS や都市の眩さにも通じる。レーザーが発する一瞬の魅惑を体験する装置



川口萌花 (moka)

メディアアーティスト。「URO」所属。インタラクティブな仕組みを用い、光やデータを媒介に人の感覚を拡張する作品を制作。

| オーディオビジュアルライブ&インスタレーション



上野豊 Yutaka Ueno  
「language is a Artical」

11月5日（水）18:30－19:00  
オーディオビジュアルライブ  
会場：長岡造形大学 映像スタジオ B



菅涼菜 Suzuna Kan  
「Unfold」

11月14日（金）13:00－17:00  
11月15日（土）10:00－17:00  
会場：ミライエ長岡 6F



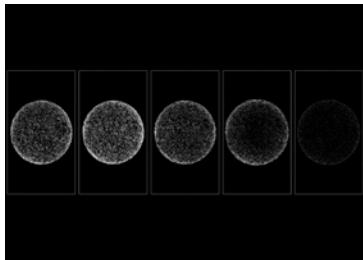
河合優羽 Yu Kawai  
「GALVANI / PIKABO」

11月14日（金）13:00－17:00  
11月15日（土）10:00－17:00  
会場：ミライエ長岡 5F・6F



森結菜 Yuina Mori  
「The Guides II」

11月5日（水）18:00－20:00  
11月6日（木）18:00－20:00  
11月12日（水）18:00－20:00  
会場：アオーレ長岡 1F ナカドマ



浅井海杜 Kaito Asai  
「Pulse」

11月12日（水）－11月16日（日）  
12:00－18:00  
会場：長岡造形大学 映像スタジオ A

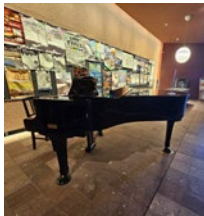
SCHEDULE

11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16
			山本信一 × 大野哲二								
生方隼人											
			瀬賀誠一						瀬賀誠一		
			川口萌花						川口萌花		
上野豊											
									河合優羽		
									菅涼菜		
森結菜							森結菜				
											浅井海杜

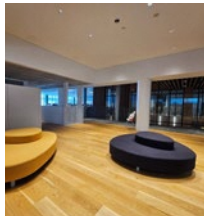
| 会場



アオーレ長岡



ミライエ長岡 1F  
ストリートピアノ



ミライエ長岡 5F  
ホール



ミライエ長岡 6F  
NEST NAGAOKA



長岡造形大学第4アトリエ棟  
映像スタジオ B

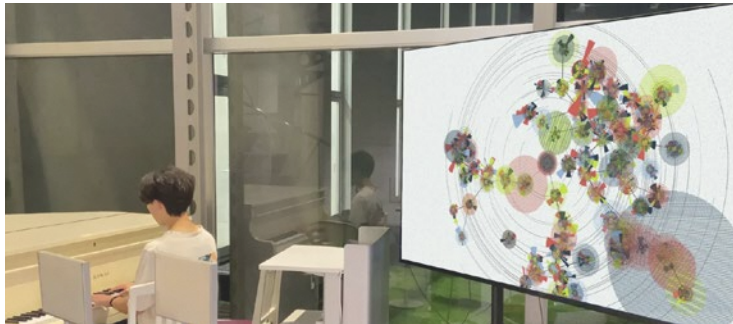


長岡造形大学第4アトリエ棟



長岡造形大学 展示館  
MàRouの杜（マルのもり）裏





## トークセッション

### モーショングラフィック・アーティストトーク

11月16日（日）13:00 – 14:00



モーショングラフィックを中心に活動する岡翔三郎と河上裕紀によるユニット「アルムナイ」が近年の作品を紹介します。TVタイトルやMVなど個々の活動に加え、屋外3Dサイネージや都市型プロジェクションマッピング、イマーシブ空間での映像演出などを紹介。生成AIを取り入れた制作プロセスを通して、モーショングラフィック表現の現在と変化を考えます。



#### 河上裕紀 Yuuki Kawakami

ディレクター

モーショングラフィックスを中心に、インタラクティブやイマーシブな大型映像、3D屋外サイネージなどを制作。Netflix『新幹線大爆破』オープニングやプラネタリアム映像、かりゆし水族館「はいさいゲート」など、媒体ごとの特性を生かしたビジュアル体験を設計している。映像演出も手がける。



#### 岡翔三郎 Shouzaburou Oka

ディレクター

モーションデザイナーとしてTVや映像作品を中心に活動。ミュージックビデオ、球体ディスプレイ映像、VRインスタレーションなど多様なメディアを横断し、ボリュメトリックキャプチャ作品「ENCLOSURE」でNEWVIEW AWARDS 2018 Kaleidoscope 賞を受賞。日本科学未来館「ジオ・コスモス」映像「LIFE」や、都市型プロジェクションマッピング「ANIME TOKYO NIGHT」など、特殊環境や都市空間での映像演出も手がける。

### 山本信一 Synichi Yamamoto × 大野哲二 Tetsuji Ohno

#### 「Snake Line」

会期：11月7日（金）– 11月16日（日）

時間：9:00 – 21:00

会場：長岡造形大学 展示館 MàRoù の杜（マルのもり）裏

長岡造形大学の森（ビオトープ）に設置された、全長20メートルのLEDインスタレーション。映像作家・山本信一（VideoListening ディレクター）と音楽家・大野哲二による共作で光と音が森と呼应しながらゆるやかに変化していく。自然とデジタルが融け合う、静謐な時間の流れを体験する作品。



#### 大野哲二（Tetsuji Ohno）

サウンド／ビジュアルアーティスト。90年代よりDJとして活動を始め音楽制作へと展開。ハウスやテクノを基盤にジェネラティブ・ビジュアルと同期したA/V作品を国内外で発表。MUTEKやSónarなど世界各地のフェスに出演し、山本信一やPush1stopとのコラボレーションも行う。広告音楽や空間音響など多領域で活動中。

### 生方隼人 Hayato Ubukata

#### 「Tunerate」

会期：11月5日（水）– 11月16日（日）

時間：10:00 – 17:00

会場：ミライエ長岡 1F

ミライエ長岡のストリートピアノの演奏に呼応して、リアルタイムに生成されるビジュアライザー。音の強弱やリズムに反応し、白鍵と黒鍵の構造をモチーフにした抽象的なモーションが空間に展開する。

### 画像生成 AI プレゼンテーション

11月16日（日）14:30 – 15:30



生成AIの進化により、映像制作のプロセスは大きく変化しつつあります。実写とCGを横断して活動する長尾健治が登場し、主要なAI画像・動画生成サービスを比較しながら、その活用方法を紹介します。実際の生成や編集のデモを交えながら、数多くのサービスが乱立するなかで、現場で「いま」実際に使えるツールや、その使い方について考えます。



#### 長尾健治 Kenji Nagao

テクニカルアーティスト / VFXスーパーバイザー

ニューヨークのSchool of Visual ArtsにてComputer Artを学び、BFAを取得。2007年より株式会社オムニバス・ジャパンに所属し、テクニカルアーティスト、VFXスーパーバイザーとして多岐にわたるプロジェクトを手掛ける。代表作として、映画『空海-KU-KAI-美しき王妃の謎』のVFXディレクションを担当。VFXスーパーバイザーとして参加したテレビドラマ『坂の上の雲』第2部・第3部は、日本映画テレビ技術協会 映像技術賞やVFX-JAPANアワードを受賞するなど高い評価を得ている。近年は、In-Camera VFXを活用したバーチャルプロダクションやメタバースプロダクションといった最先端技術の探求に注力。実写とCGを高度に融合させ、次世代の映像表現を切り拓いている。

#### 会場：長岡造形大学円形講義室

100名（先着）参加無料、事前申込制 / 申し込み先 左のQRコードから  
お問い合わせ 長岡市DX推進部 DX政策課 / Eメール itp@city.nagaoka.lg.jp  
電話番号 0258-39-2205



# 画像生成 AI モーショングラフィック

デジタルモーショングラフィック・アーティストトーク&画像生成 AI プレゼンテーション



## 第一部

デジタルモーショングラフィック・アーティストトーク

アルムナイ

2025 11/16 (日) 13:00-14:00

## 第二部

画像生成 AI プレゼンテーション

長尾健治

2025 11/16 (日) 14:30-15:30

## Videolisting

Program for Digital Art & Technology

2025 11/5-11/16

VideoListing HP <https://videolisting.space/>

主催：公立大学法人長岡造形大学 長岡市  
企画：公立大学法人長岡造形大学 山本信一研究室  
協力：NTT 東日本新潟支店 株式会社ソルメディエージ  
iml デザインスタジオ  
株式会社オムニバス・ジャパン superSymmetry

SOLU MEDIAGE inc.  
A Creative Production Studio.

iml  
design studios

OMNIBUS JAPAN

NTT 東日本新潟支店



公立大学法人  
長岡造形大学  
Nagaoka Institute of Design

# 2025 11/16 SUN

13:00-15:30

長岡造形大学円形講義室



100名(先着)参加無料、事前申込制  
申し込み先 左のQRコードから  
お問い合わせ 長岡市 DX 推進部 DX 政策課  
Eメール [itp@city.nagaoka.lg.jp](mailto:itp@city.nagaoka.lg.jp)  
TEL : 0258-39-2205





## 【1】モーショングラフィック・アーティストトーク アルムナイ

2025 11/16（日）13:00-14:00

モーショングラフィックを中心に活動する岡翔三郎と河上裕紀によるユニット「アルムナイ」が登場し、近年手がけたプロジェクトを紹介します。TV や映画のタイトルバック、MV などでも個々に活動してきた二人が、屋外 3D サイネージ、都市型プロジェクションマッピング、イマーシブ空間演出など、実際の映像事例を交えながら話します。あわせて、生成 AI を取り入れたビジュアル制作のプロセスを組み込むことで、モーショングラフィックという領域がどのように変化しつつあるのかについても検証します。



### 河上裕紀 Yuuki Kawakami

ディレクター／モーションデザイナー。モーショングラフィックスを中心に、3DCG を取り入れたグラフィカルな表現で映画や TV ドラマのタイトルバック、企業 CIなどを制作。近年はジャンルや媒体を問わず、企業 CM からプラネタリウム映像まで幅広く活動。Netflix『新幹線大爆破』のオープニングディレクション、かりゆし水族館「はいさいゲート」などのほか、池袋エリアのプロジェクションマッピング「ANIME TOKYO NIGHT」や新宿クロスビジョン、渋谷バンドラビジョンの 3D 屋外サイネージ映像など。新しいテクノロジーを積極的に取り入れ、フォーマットごとの個性を読み解きながら、最適なビジュアル体験を設計している。



### 岡翔三郎 Shouzaburou Oka

ディレクター／モーションデザイナー。ミュージックビデオの CG ディレクションから球体ディスプレイ映像、プロジェクションマッピング、VR インスタレーションまで、多様なメディアと技術を横断しながら映像表現を展開。ポリュメトリックキャプチャ作品「ENCLOSURE」では VR における視聴覚体験を追求し、「NEWVIEW AWARDS 2018」Kaleidoscope 賞を受賞。日本科学未来館「ジオ・コスモス」映像「LIFE」では、直径 6m の球体という特殊環境での企画・演出・実装を担当。コロナ禍のリモート環境で制作した「STAY ALERT」では実写と 3DCG を融合した映像を制作。近年は「Sony Park 展 2025」内プログラム「ファイナンスは、詩だ。」にて羊文学の歌詞と水・光の融合による映像のモーショングラフィックスを担当。



## 【2】画像生成 AI プレゼンテーション 長尾健治

2025 11/16（日）14:30-15:30

生成 AI の急速な進化により、映像制作のプロセスも大きく変わり始めている。サービスが乱立する中で、現場で実際に「使える」ものは何か——本プログラムでは、長年にわたり実写と CG を横断して新しい映像表現を切り拓いてきた長尾健治が登場。

現在利用可能な AI 画像・動画生成サービスを比較し、強みや活用シーンを整理。そのうえで実際に AI を動かしながら生成・編集を行い、リアルタイムに可能性を提示する。

「AI ならではの質感をどう自然に仕上げるか」「制作フローにどう組み込むか」「クリエイターにとっての新しいツールとなり得るのか」。トーク、デモンストレーション、ノウハウ共有を交えながら、初心者からプロフェッショナルまで幅広く体験できるプログラム。



### 長尾健治 Kenji Nagao

テクニカルアーティスト / VFX スーパーバイザー

ニューヨークの School of Visual Arts にて Computer Art を学び、BFA を取得。2007 年より株式会社オムニバス・ジャパンに所属し、テクニカルアーティスト、VFX スーパーバイザーとして多岐にわたるプロジェクトを手掛ける。

代表作として、映画『空海-KU-KAI- 美しき王妃の謎』の VFX ディレクションを担当。VFX スーパーバイザーとして参加したテレビドラマ『坂の上の雲』第 2 部・第 3 部は、日本映画テレビ技術協会 映像技術賞や VFX-JAPAN アワードを受賞するなど高い評価を得ている。近年は、In-Camera VFX を活用したバーチャルプロダクションやメタバースプロダクションといった最先端技術の探求に注力。実写と CG を融合させ次世代の映像表現を切り拓いている。



### 山本信一 Synichi Yamamoto

国内外で活躍するメディアアーティストでありながら、広告分野でも数多くの映像作品を手がけてきた映像クリエイター。Sony Music CI などをはじめ、モーションロゴ、劇場作品のタイトルバック、大型映像など幅広い実績と受賞歴をもつ。都市空間での映像展開など、既存の映像フィールドを拡張する新たな表現を追求し、2021 年に手がけた「新宿東口の猫」では独特のユーモアで国内外から大きな反響を得た。都市の屋外映像を使ったソーシャルデザインとして 17 の賞を受賞。

<https://www.omnibusjp.com/supersymmetry/>